

# 校長室だより

第38号

発行日 2009年11月9日

発行者 桐光学園小学校長 斎藤 滋

## 【Bグラウンドで】

中休みと放課後はBグラウンドがサッカー専用の遊び場となります。子どもたちがサッカーをしている様子を見ていると、いつもその試合の中には1年生から6年生までの子どもたちの姿があります。身長などの体格面でも、走る速さや技術面でも大きく異なる子どもたちが一緒にサッカーを楽しんでいます。

その中で、ゲーム中に体の小さい低学年にも活躍の場を与えていたり、高学年の子どもたちがいます。無理にボールを取りに行くようなことをせずに、一緒にプレーをしている仲間が活躍できるように配慮しながら自分の力が出せる場面をしっかりと作っているように私には見えます。遊びの中での異学年交流にも温かい子どもたちの心を感じることができ嬉しく思っています。

## 【インフルエンザへの対応】

小学校では、9月初旬にインフルエンザによる学級閉鎖を行いましたが、その後しばらく感染者もなく順調に教育活動を進めることができました。ニュースでは、10月に入ってから感染者が増加するという情報が流れましたが、まさにその通りの状況がこの小学校でも見られました。運動会当日の1年1組の出席者数のあまりの少なさに皆さんはさぞ驚かれたことでしょう。前日までも、インフルエンザと確認されていない児童も含めて数名の欠席者がいましたが、運動会前日の夜から当日朝にかけての発熱の症状が見られるようになつた児童数の増加は私たちの予想をはるかに上回るものでした。

その後も、感染者は増加傾向を見せ、一時は7学級で学級閉鎖の措置を取ることになってしまいました。どうして学校閉鎖にしないのか?という声も聞こえてきましたが、欠席者0という学級や学年の子どもたちの気持ちを思うとなかなか実施できませんでした。なお、最近の情報では、今回のインフルエンザについてはこれまでの季節性のものと同じような扱いにしていくという傾向も見られます。学校では、以前お知らせいたしました、学級閉鎖実施の判断基準を単なる欠席者数だけに求めるではなく、より実情に合ったものにし、児童の感染状況を見ながら判断していくことといたします。

また、先日メールでお知らせいたしましたように、インフルエンザによる出席停止証明書の扱いが変わりましたので、その趣旨をご理解いただいた上で今後の連絡をお願いいたします。なお、他の理由(例えば、麻疹など)による出席停止の場合はこれまでと同様に証明書の提出をお願いいたします。

## 【行事写真】

学校行事の写真を保護者の皆さんのが購入できるようにしておりますが、現在、保護者の皆さんのが写真を選ぶ際に、なんとか見やすくしようと掲示以外にホームページでも確認していただけるようにしています。今年の運動会の写真が全部で1000枚ほどあるということから、それだけの写真をどのように掲示するか、また保護者の皆さんのがそれを見ながら希望する写真を選ぶことが可能かどうかについて議論となりました。もともと写真の販売に関する仕事は教員の本来の仕事ではないと考えておりますが、保護者向けのサービスの一つとして、広報部で担当するようにしています。

今回、ほとんどの保護者の皆さんのが、ホームページでの写真選びができる環境にあるということであれば、掲示を取りやめることも考えてのアンケートを実施いたしましたが、掲示された写真を見ている、どちらも見ているという方が私たちの予想した数よりもかなり多かったため、しばらくの間はこれまでと同様に掲示とホームページという2つの方法を継続することといたします。今後、よりよい方法があるかどうかは検討を継続して行きます。

なお、新たにコンピュータ室の後方に、保護者専用のインターネット閲覧可能なパソコンを2台設置しましたので、ご来校の際に写真注文をされる方はどうぞご利用ください。(使用説明書も用意しておきます。)

## 【保護者の皆さんと一緒に考えたい電車内での様子】

新百合ヶ丘駅から唐木田方面に向かう電車を利用されている方から次ぎのようなご連絡をいただきました。

…毎朝、新百合ヶ丘駅から乗車するのですが、小学生が集団になりドアのところを占拠しており、五月台で乗車する人を、人の壁を作り乗せなくさせます。(降りる人に関しても同様な行為をします。) 小学生の会話を聞くと、「五月台で人が乗るから、お前ら後ろから押して混んでるように見せて、乗せなくさせよう!!」男の子と女の子が混じってやってあります。これを大人が何度も注意しても、ほぼ無視の状態です。聴き入れません!! お年寄りが乗車してくる時も同様の行動をするため、悪質です。しかも、この行動により降りる人が降りられず、ドアに挟まりそうになったこともあります。…

登校時の電車は大変混み合っており、子どもたちがドア付近に集まってしまうことも確かです。ここにあるような悪質なことはあっては困りますが、子どもたちがまわりの様子に気を配りながら、自分がどのように気をつけたらよいかを考えるようにしなければならないと考えています。